

箕面” このすばらしい自然にあふれた街に  
あいかとう

私か

関東から関西に移り住んでからもう35年くらい経ち  
ました。こんな風に長く住むことができるとは思ってもいません  
でした。まったくはじめは箕面に住んでみて、まず山々か  
らかえてくると思っています。はじめに船場地まで、私の心のサレ  
家族との相違点の花、桐の花に出会えました。大阪城  
に桐畑が、あそび家族と散歩に行き、その時のうすむらさき  
の桐の花が、この香りとともに、風に舞っていた場面、  
とてもうれしく箕面になにか、ふしぎな土地とのつながり  
を感じ、それから山や滝道に行くと、植物や鳥と出会える  
ことができると、よろこびが増してきました。  
阪神大震災が起きてからは、箕面に住んでいて、なにか  
自分に出来るものがないか、考えるようになったのは、私だけでは  
なかったのでは、ないでしょうか。

地域とのつながりは 中学校的のPTAでの役員に当たってからです。  
コミュニティセンターが箕面には 小学校区の中にもあり いろいろある  
方々から お話を お聴きして できることかあるだろう  
ホラントピアとして登録するのが一番いいのではないかと 一歩を  
はじめました。 そんな中 箕面が大好きになつたのは  
コミュニティ放送（MのFM）が開局して いろいろ情報を  
得ることができたことです。

箕面では 一般市民の方々が その水への 趣味や活動  
分野もこうして いろいろ活動しておられ また一つ一つつなが  
りかできていけたことも 感謝の気持ちで あらうと申し  
上げなければ なりません。

イベントに参加すると（公報などから コミュニティ放送から教えて  
もらう） 自然観察の方々とお会いしたり おせじ見会などには  
民謡やおどりの会の人達も 場を盛りあげてくださったり  
と ずっと 毎日 ながくと楽しんであります。

やはり賛面は、山々が、つも、人々も、色々ぞくひて、いろようで、  
本当に、すうと、おぼして、住みた、いと思ひ、うて、い、ます、  
やさし、い、気持ち、を、よび、おこ、させ、て、く、ゆる、待、い、  
本当に、ありが、とう、改、め、て、住、ん、で、ま、か、つ、た、い、い、い、か、ら、の、  
毎日、感、謝、し、て、一、日、を、大、切、に、す、こ、し、て、い、ま、ま、し、ら、う、

箕面へ

タイトル **ありがとう箕面**

— 枚目

きれいな町を作ってくれてありがとう。

これからはもうときれいな町でいてください。

きれいな町を作ってくれたのはいいけど、かんきょうははかいしないでください。  
いなかにならずときれいな山や自然をなくしてほしくないからです。  
おねがいします。

箕面のたきほきれいです。三年の時の遠足で箕面のたきがこ  
ん虫食宮などにいった時、虫を見ました。ほくたちと母が、あたる日  
すごくかわいかったです。

こん虫食宮に行った時は、ちょうかとてもきれいでした。いろいろなしゅりいの  
中で、じ色の羽のちょうか一番きれいと思いました。

その時、

「なんで羽が、じ色なんだろう」と  
と思いました。

箕面は山が多い町だけど、その分自然にみちているので、いろい  
ろな動物がいる。自然が多い町にもっともってほしいです。  
これからは、どんどん新しい物が、あていけ、あふえるほどにき  
やかな町でいてください。ほくが死んでも、もうときれ  
いな町でいてください。

ほくより

氏名 ふりがな 内野 まね 学斗

年齢 (学生の場合は学年も) 8 歳 学年 3 年

タイトル 箕面、ありがとう

1 枚目

ぼくは、自然がたくさんある箕面に「ありがとう。」と言いたいです。ぼくは、生まれた時から箕面にすんでいて、箕面の山やたきや川が大好きです。日曜日は、いつもお父さんと妹といっしょに箕面のたきの山道を登って、昆虫をつかまえたり、昆虫館に行きます。しん水公園の川に行くと、小魚もとったりします。

箕面の山は、たてものが新しくなって、遊びに来る人がふえました。でも、自然をそのままに残しているのが、めずらしい昆虫や木や花がたくさん見つけられます。昔から、ずっと箕面の人たちが自然を大切にしてきたからだと思います。だから、昔の人たちにも「ありがとう。」を言いたいです。

そして、今、ぼくたちができることも考えました。山や川に遊びに行く時、ゴミを捨えないことや、きれいにせいそうしてから帰ること。虫をとっても、少しだけにして、また箕面の自然に帰してあげることです。ぼくも自然を守って、みんなに箕面を、じまんしたいです。

氏名

なか井 聡太

年齢  
(学生の場合は学年も)

8 歳 学年 3 年

タイトル みのおの四季にありがとう

□ 枚目

春のみのおのどこかしこ 花がきれいに咲きみだれ 風がやさしくほつたでる 木々の芽ばえは愛らしく 小鳥は梢でたきかわす	秋のみのおの山すどの お寺のいちょうは金色に もすこし上をながめれば もみじかえでが朱に染まり みるひとたちの目も染める
夏のみのおの滝のみち 行きかう人や蝉のこえ おしゃれなカズに憩うひと 木蔭のベンチの二人づれ みどりしたたる散歩みち	冬のみのおのたたずまい 陽だまりまるくおたやかに 小さく会釈の散歩びと 夕陽は半分山のはし カラスもねぐらに帰ってく 笑顔の四季にありがとう

ありがた  
氏名

まつ お けん じ  
松 尾 謙 治

年齢  
(学生の場合は学年も)

72 歳 学 年 年

タイトル 箕面という町へ

1 枚目

毎日、自せんがあります。それは、この町に住む人々が自せんを一言ではすまないほど大切に、使っているからと。まるで、命のように。自せんがあるから、生きれるのです。わたしたちは、有りかとう。わたし達は、学校に来る時、パトロールをしていてくれる人がいます。朝、心がもっている時、おはよう、いってらっしゃい、とパトロールの人がいってくるだけで心が清れてしまいます。この言葉はまほうの言葉です。わたしが1年生だった時、パトロールをしていてくれる人が来て、その時、いよいよとちうまで行こうか、と言ってくれました。その時、ふたつたので、うれしがたて。そして安全に帰れました。有りかとう。

箕面は、お金もかけずにパトロールをしてたりしていました。お金がモク的ではなく、人々の命を一つでもけさずに、ということがモク的だったので、雨の日は一列になるといひよ、と声をかけられました。二列だとかさがぶつがてあぶなかつたので、一列になりました。それも、命を守る一つの方法です。有りかとう。

この町箕面は一日何回も何回も有りかとう、という言葉を使っていると思います。命を守る箕面。60才ぐらいの人だってパトロールをいっもしてくれる箕面。一人たけじやない箕面。助け合う箕面。まほうの有りかとうという言葉が聞こえてくる箕面。箕面のみなさん、有りかとうございます。

ありがな 氏名	ミ 三	クニ 國	アキ 有希
------------	--------	---------	----------

年齢 (学生の場合は学年も)	9 歳	学年	4 年
-------------------	-----	----	-----

命  学校  箕面  
応募されるテーマにチェックしてください。